

講義名	教養基礎（自己発見とキャリア開発）		
科目区分	教養基礎		
担当教員	南木 睦彦		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

流通科学大学では4年間の教育課程の初めに「気づきの教育」を置いている。気づきの教育の目的は、自発的で積極的な行動を伴う多数の経験を通して得られる様々な「気づき」から、一人一人の「なりたい自分(夢の種)」を探し、それに応じて本学での4年間の学びをより充実させ、意義あるものにする事である。「気づきの教育」の幹となる必修科目として「自己発見とキャリア開発」を置いている。教養基礎(自己発見とキャリア開発)は、「自己発見とキャリア開発」を未習得の学生に対して開講して、同様の教育目的を達成しようとするものである。この科目は2単位なので、「自己発見とキャリア開発」(8単位)のうち、主要な要素について盛り込み、同様の学修目的を達成しようとするものである。すなわち、大学での学びや社会に出てからの基礎となる能力について、気づいて向上させる。職や学び、ならびにその関連性について自らに即して気づく。それらを踏まえて、将来の夢や目標をつかみ、将来を見据えた「4年間の学びの道筋(キャリアビジョン)」を作成する。

**到達目標**

・6つの基礎能力の必要性に気づき、自分の現状を知り、向上させること。また今後の継続的な向上のきっかけをつかんでいること。(6つの基礎能力とは、「コミュニケーション力」「常識力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」「学び力」)

・「職」「学び」「両者の関係性」について、自分自身に即して様々な気づきを得ていること。

・様々な気づきに基づき、自分自身に即して考えた上で、自分自身の将来の夢や目標を持ち、将来を見据えた「4年間の学びの道筋(キャリアビジョン)」を獲得していること。

**提出課題**

毎回の授業終了時に、その日の成果の概要をまとめて提出する。このほかに別途課題を出す場合がある。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

提出物については授業中に講評・解説する。

**評価の基準**

プログラムへの取り組み姿勢と上記の - の到達目標が達成されたかどうかによって成績評価する。取り組み姿勢については、出席状況や取り組みの態度、積極性、真面目さなどで総合的に評価される。到達目標が達成されたかどうかは、毎回の提出物等で判断することになるが、取り組み姿勢が適切であれば到達目標が達成されるようなプログラムになっている。遅刻・欠席が多かったり、取り組み姿勢が適切でなければ、低い評価になったり、不合格になったりする。遅刻や欠席・まじめでない取り組み姿勢は、自分自身が標をするだけでなく、クラスやグループの他のメンバーに迷惑をかけることになるので避けること。結局のところ、遅刻欠席をせずまじめに出席して、積極的に各プログラムに取り組むことが、到達目標の達成に結び付き、高い評価を得ることにつながる。

**履修にあたっての注意・助言他**

この科目の受講対象者は「自己発見とキャリア開発」が未修得の学生である。「自己発見とキャリア開発」の未習得者は、本来、8単位の「自己発見とキャリア開発」を再履修すべきであるが、特別措置として、この科目2単位と、追加で教養科目6単位を卒業までに修得することで、卒業要件を満たすことができる。

教科書	.使用しない。

**プリント資料及び参考文献**

資料類は基本的には授業時間に配布する。

**授業計画**

授業計画については、シラバス作成時のプランであり、受講生学生の人数や状況によっては変更する可能性がある。

1. 科目の目的・アイスブレイク・イントロダクション
2. 自己発見：自己分析、コミュニケーション1
3. 自己発見：自己分析、コミュニケーション2
4. 大学生生活の充実1
5. 大学生生活の充実2
6. 仕事発見1
7. 仕事発見2
8. 仕事発見3
9. フィールド演習と仕事探し
10. 将来の夢や目標 コース選び ゼミ選び
11. 4年間の目標
12. 「まとめる力」と「考える力」1
13. 「まとめる力」と「考える力」2
14. 「まとめる力」と「考える力」3
15. 科目のまとめと振り返り

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア：PBL(課題解決型学習)
イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

いくつかの課題について、授業時間外の学習をすることになる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

常に学生間や教員と学生の相互啓発的な刺激の下で授業を行う。この意味でこの授業は基本的に双方向授業である。

**実務経験の有無及び活用**

**備考**